

平成27年度購入文化財一覧

【九州国立博物館】(計5件)

- 1 ○種 別 <絵画>  
○名 称 絹本着色阿弥陀三尊像(けんぼんちゃくしよくあみださんぞんぞう)  
○時 代 中国 南宋時代・13世紀1面  
○品 質 絹本着色・掛幅装  
○員 数 1幅  
○寸 法 等 本紙:縦90.0cm 横52.6cm 表具:縦195.0cm 横74.2cm 軸長80.3cm  
○作品概要 阿弥陀如来とその脇侍である観音菩薩、勢至菩薩を描いた南宋時代の作例。画面中の銘文によって南宋時代の画家・張思恭筆と判明する京都・禅林寺および京都・蘆山寺の「阿弥陀三尊像」との画風の親近性が認められることから、本図も銘文等はないものの張思恭あるいはその工房で描かれた可能性がきわめて高い。なお、左手に水瓶をのせるという阿弥陀の印相はほかに類例がなく、際立った特徴といえる。本図と直接的な関係を示す日本の作例は見いだせないが、典型的な南宋絵画の様式を示す本図は、鎌倉時代の絵画や彫刻に多大な影響を与えた宋画の具体的な作例としてその価値はきわめて高い。また、日本において南宋画家として高く評価されてきた張思恭の様式を知る上でも大きな意義をもつ。  
○来 歴 川崎正蔵(1836-1912)旧蔵  
○購入金額 129,600,000円



- 2 ○種 別 <絵画>  
○名 称 紙本着色伊勢物語図色紙 第七段 かへる波 俵屋宗達筆(しほんちゃくしよくいせものがたりずしきし だいななん かえるなみ たわらやそうたつひつ)  
○作 者 等 俵屋宗達  
○時 代 江戸時代・17世紀  
○品 質 紙本着色・掛幅装  
○員 数 1幅  
○寸 法 等 本紙:縦24.8cm 横21.0cm 表具:縦141.8cm 横43.7cm 軸長48.5cm  
○作品概要 『伊勢物語』第七段「かへる浪」を主題とする作品である。京に居づらくなった主人公の男が東へ旅立つが、伊勢と尾張の境の海辺に到ったところで、寄せては返す波を羨む和歌を詠んだという短編を画題とする。画中には狩衣姿の主人公が縁側に座って海を眺める姿を描き、画面右上の金地に和歌を書写する。群青・緑青等で彩色を施し、金銀泥の細い筆線で文様を表わすなど、非常に丁寧な描きぶりを特徴とする。俵屋宗達およびその工房による「伊勢物語図色紙」(現存59枚)のなかでも、特に描写の秀でた作例の一つに数えられる。なお、本色紙の旧肌裏紙には、表と同じ和歌と、段の数字(「七」)、詞書筆者(「高辻侍従殿」)を記した墨書が確認できる。  
○来 歴 益田孝(1848-1938)旧蔵  
○購入金額 60,000,000円



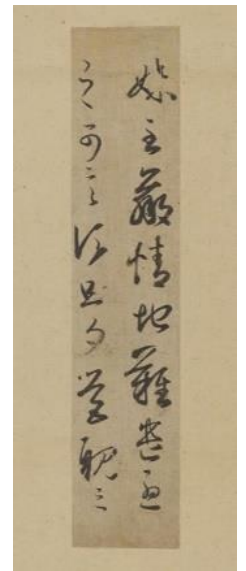
- 3 ○種 別 <書跡>  
○名 称 紙本掲摸王羲之尺牘(妹至帖)(しほんとうもおうぎしせきとく(まいしじょう))  
○作 者 等 (原跡)王羲之筆  
○時 代 (掲摸)中国・唐時代・7~8世紀 (原跡)中国・東晋時代・4世紀  
○品 質 紙本掲摸・掛幅装  
○員 数 1幅  
○寸 法 等 本紙:縦25.3cm 横5.3cm 表具:縦136.0cm 横34.9cm 軸長39.0cm

○作品概要 4世紀・中国東晋時代の貴族・王羲之は、漢字の各書体・各書法に兼ね通じた能書で、後世「書聖」と尊崇される。その書は、漢字文化圏における書法の王道とされ、毛筆学習の正統的手本として文化史的に価値が高い。こんにち、王羲之の肉筆は世界に1件も存在せず、臨書や拓本などの複製のみで伝わるが、なかでも本作品は、中国唐時代の双鉤填墨という方法による最高品質の歴史的複製である。この双鉤填墨による王羲之の書は、世界に10件程度と希少で、うち4件がわが国に伝存する。王羲之の書は中国歴代王朝が収集につとめ、わが国には遣唐使によって精巧な複製が将来され、以後の日本書道史に多大な影響を及ぼした。本作品は、王羲之が病弱な妹のことを心配して主に草書で書いた手紙の一節で、散見される丸みのある字姿は、平安時代中期の和様書法の原風景としても意義深い。日中の書の架け橋を象徴する名品である。

○来歴 旧大名家（未詳、一説に前田家か）…中村富次郎  
○購入金額 378,000,000円



(全体)



(本紙)

4 ○種別 <陶磁>  
○名称 色絵唐花福寿文反皿（いろえからはなふくじゅもんそりざら）  
○作者等 伊万里（有田）・柿右衛門窯  
○時代 江戸時代・元禄12年（1699）  
○品質 磁器  
○員数 1枚  
○寸法等 高2.4cm 口径16.5cm 高台径11.0cm

○作品概要 型打成形により、見込から口縁を高め折り返し幅広の鐺縁状とし、さらに端部を平らとする。見込中央を白く残し、それを囲むように口縁部にかけて呉須で如意雲文形と唐花文形の窓枠を交互に三つずつ設ける。如意雲形の窓の内側には桃形の窓枠を配し、赤色の輪郭線と白抜きで「壽」字を表し、唐花形の窓枠の内側には木瓜形の窓枠を描き、赤線と金色の上絵具で「福」字を記す。肥前（現佐賀県）・有田の柿右衛門窯が製作した「元禄柿」と呼ばれる色絵磁器の皿。「元禄柿」には、元禄六年・八年・十二年銘の作品があり、本作品は高台に「元禄十二年 柿」銘がある。金欄手様式の成立を示す、伊万里焼の研究上重要な基準作品である。説田家旧蔵品。

○来歴 説田家…岸清一…岸偉一  
○購入金額 27,000,000円



5 ○種別 <染織>  
○名称 茜地獅子唐草文更紗茶具敷（あかねじししからくさもんさらさちやぐしき）  
○作者等 布地：インド 仕立て：日本  
○時代 布地：（表地：18世紀/裏地：17～18世紀前半） 仕立て：江戸～明治時代・19世紀～20世紀

○品質 [表]茜地獅子唐草文更紗、木綿単糸平織。 [裏]黄地縞織、経糸絹・緯糸木綿交織、平織。

○員数 1枚  
○寸法等 縦177.0cm 横125.4cm

○作品概要 茜地獅子唐草文の更紗を表に、裏には黄地縞織を添わせ絹糸で縁取り縫いした敷物。表地は「獅子手」と称されるインド更紗で、獅子、蓮華唐草文を布一面に手描きし、獅子文には紫と薄紅、蓮華文には浅葱と茜色を交互に染め、唐草文は蠟防染で白く染め貫く。裏地に添えられた縞織物は「かびたん」と称される経絹・緯木綿の交織縞織物で4枚をはぎ合わせている。

○購入金額 14,688,000円



(全体)



(部分)